伊達市元気な子ども・みんなの子育て条例（案）

伊達市（以下、「市」という。）のシンボルである名峰霊山の豊かな「自然」、伊達氏発祥の地のロマンあふれる「歴史」、寒暖差や肥沃な土地が育む多彩でおいしい「農産物」、あたたかく人情味あふれる「人」は、これまで伊達市の子ども（以下、「伊達っ子」という。）達の健やかで心豊かな成長に大きく寄与してきました。

これらの土壌のうえに、これからも伊達っ子達が郷土に誇りを持ち、豊かな人間性を身に付け、社会で自立していくためには、次の2つのことが大切です。

一つ目は、伊達っ子が「元気」であることです。

元気な伊達っ子とは、身体健康に限らず、精神の健全さも含め自己肯定感を持って、どのような困難な状況でも前向きに乗り越えることができる、気力に満ちた子どもです。

二つ目は、子育てを「みんな」で行うことです。

伊達っ子がより良く育つには、伊達市版ネウボラで子育て家庭を支えつつ、地域社会のみんなで伊達っ子達の居場所をつくり、家族と同様に受け入れ、応援し、見守り育てていく意識づくりが重要です。

令和5年に、自ら考え行動できる指針として、「伊達っ子の誓い」が子ども達の意見をもとに生まれました。市は、伊達っ子がこの誓いを実践することができるよう取り組みます。

伊達っ子の元気とみんなで子育てを行う意識が市全体へ浸透し、すべての人がここで育ち、育てられたことを誇りに思えることを願い、ここに条例を制定します。

伊達っ子の誓い

テーマ1	人との関わり	わたしは友達と仲良くします
テーマ2	あいさつ	わたしは明るく元気な声であいさつをします
テーマ3	健康	わたしは毎日元気に過ごします
テーマ4	ふるさと	わたしは自然とふるさとを大切にします
テーマ5	挑戦・努力	わたしは将来の夢に向かって日々努力します

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、伊達っ子とその保護者を支援するための基本理念を定め、市及び地域社会の役割を明らかにして、市全体で子ども・子育て支援のための施策（以下、「施策」という。）を総合的、継続的かつ安定的に推進することにより、伊達っ子が最善の利益を享受し、伊達っ子の元気及びみんなで子育てする意識が市全体に浸透することを目的とします。

（定義）

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによります。

- (1) 伊達っ子 市の子ども。心身の発達の過程にあるおおむね 18 歳までの者をいう。
- (2) 保護者 親権を行う者、未成年後見人その他子どもを現に育てる者をいう。
- (3) 遊び学び育つ施設 保育施設、学校、放課後児童クラブ、遊び場及びその他伊達っ子が遊び、学び、育つことを目的とした施設をいう。
- (4) 市民等 市内に居住する者、通勤する者又は市内で子育て支援活動を行う者をいう。
- (5) 事業者 市内において事業を行う個人及び法人その他の団体をいう。
- (6) みんな 伊達っ子に接する機会のあるすべての大人をいう。

(基本理念)

第3条 施策は、次に掲げる事項を基本理念として行うものとします。

- (1) 伊達っ子が、性別、人種、障がい、経済状況及び家族の状況等によって、差別、いじめ、体罰、虐待等を一切受けることなく、人権が守られ、安心して生きていくことができ、かつ、自分の関係ある事柄について自由に意思を表すことができ、尊重されること。
- (2) 伊達っ子が、自分の居場所を実感でき、のびのび生き生きと成長することで、自己肯定感を育み、最善の利益を得られる環境を整えること。
- (3) 伊達っ子が、豊かな遊びと学び、望ましい生活習慣を通じて成長するとともに、必要な支援を受けることにより、社会の一員として生活する能力を身に付けること。
- (4) 保護者が、過度な負担を感じることなく、子育ての喜びや楽しさを感じられるよう、みんなで子育てすること。

第2章 役割

(市の役割)

第4条 市は、次のことを推進します。

- (1) 施策を総合的、継続的かつ安定的に実施するため、各関係機関と連携を密にしながら支援体制を確保すること。
- (2) 伊達市版ネウボラにより、保護者が安心して子育てし、子育ての喜びを実感できるよう、子育て家庭に寄り添いながら切れ目なく支援すること。
- (3) 施策実施にあたり、伊達っ子の意見を尊重し、伊達っ子が最善の利益を得られるようにすること。
- (4) みんなで互いに連携し、地域で子育て家庭に積極的に関わる意識の醸成を図ること。

(伊達っ子の役割)

第5条 伊達っ子は、次のことを推進します。

- (1) 自分の命、気持ち及び体を大切にし、自分の考えを持って意見を述べ、行動すること。
- (2) ルールやマナーを守り、相手の価値観や多様性を認め尊重し、思いやりの気持ちを持って人に接すること。
- (3) 伊達っ子の誓いを念頭に日々を過ごすこと。

(保護者の役割)

第6条 保護者は、次のことを推進します。

(1) 伊達っ子が自己肯定感を高められるように、賞賛と励ましを積極的に行うこと。

(2) 伊達っ子が社会規範やルールを身に付けられるように、誤った行動等をとったときは適切に叱ることの大切さを理解し、実践すること。

(3) 伊達っ子が自立するために必要な、望ましい生活習慣を身に付けさせること。

(4) 伊達っ子に対して、体罰や虐待が心身に深い傷を与えることを認識し、行わないこと。

(遊び学び育つ施設の役割)

第7条 遊び学び育つ施設は、次のことを推進します。

(1) 伊達っ子とその保護者が安心して過ごすことができるよう、伊達っ子の人権に配慮すること。

(2) 伊達っ子の年齢及び心身の発達に応じて、主体的に遊び、学び、育つことができるよう必要な支援を行うこと。

(3) 伊達っ子の居場所となり、充実した集団生活を通じて、豊かな人間性及び社会性を身に付けることができるよう必要な支援を行うこと。

(市民等の役割)

第8条 市民等は、次のことを推進します。

(1) 子育てを主体的にとらえ、すべての伊達っ子と家族のように接すること。

(2) 地域行事その他社会性を育むことができる場を提供し、伊達っ子及び保護者と積極的に関わりを持つこと。

(3) 伊達っ子への声掛け、傾聴及び見守りにより、犯罪、虐待等から伊達っ子を守ることができるよう安全で安心な地域づくりを行うこと。

(事業者の役割)

第9条 事業者は、次のことを推進します。

(1) 仕事と子育てを両立することができる働き方について、従業員と話し合うよう努めること。

(2) 男性の育児参加に配慮すること。

(3) 市の施策、伊達っ子及びみんなが企画する活動に協力するよう努めること。

第3章 子ども・子育て支援への施策

第1節 子育て家庭への施策

(発達の保障)

第10条 市は、伊達っ子が健康かつ安全で情緒の安定した生活ができる環境を保護者とともにづくり、かつ、様々な多くの人との関わりを持たせる機会を設けることで、伊達っ子の健やかな育ちを保障します。

(支援を要する伊達っ子への取り組み)

第11条 市は、障がいのある伊達っ子、医療的ケアを必要とする伊達っ子、経済困窮の伊

達っ子、家族の介護看病世話を長期間かつ日常的に行っている伊達っ子（以下、「ヤングケアラー」という。）及びその他支援を要する伊達っ子のため、関係機関と連携して必要な支援を推進します。

（相談体制の整備）

第12条 市は、伊達っ子及び保護者が安心して相談し、充実した支援を受けられるよう、伊達市版ネウボラを中心として、関係機関と連携した相談体制の構築を推進します。

（保護者の居場所の確保）

第13条 市は、保護者が地域において子育て等の情報交換や、安心して自分らしくいられる拠点の確保等に必要な施策を推進します。

第2節 生き抜く力を育てる施策

（生き抜く力の醸成）

第14条 市は、伊達っ子がみんなから愛され、かけがえのない存在であるということを認識し、自己肯定感を持って元気に生き抜くことができるよう、次のことを推進します。

（1）伊達っ子が、自主性を持って物事に取り組み、試行錯誤を繰り返しながら新しい世界を広げ、能力を開花できるよう、みんなで支え見守ること。

（2）伊達っ子が、遊び学び育つ施設及び地域の企画や行事等を通して、他者との関わり方について学び、相手を尊重する気持ちを育むことができるよう、みんなで支え見守ること。

（3）伊達っ子が、自制心を育むために感情をコントロールして粘り強く取り組み、多様な環境や状況に適応することができるよう、みんなで支え見守ること。

（望ましい生活習慣の確立）

第15条 市は、伊達っ子が生涯にわたって健康な生活を送ることができるよう、次のことを推進します。

（1）みんなが、伊達っ子へ十分で良質な睡眠時間を確保させるため、早寝早起きと日中に思う存分体を動かすことの大切さを伝えること。

（2）みんなが、伊達っ子へ望ましい食生活に必要な知識及び判断力を身に付けさせるとともに、市の豊かな自然や伝統文化を生かした食事の大切さを伝えること。

（3）大人が、伊達っ子と楽しく一緒に食卓を囲み、作ってくれた人や食材に感謝することの大切さを伝えること。

（伊達っ子の居場所の確保）

第16条 市は、伊達っ子が遊び、学び、育つための居場所を見つけられるよう、次のことを推進します。

（1）伊達っ子が、安全・安心に過ごせる場を確保すること。

（2）伊達っ子が、望ましい人間関係を作りあい、自分らしく過ごすことができる場を確保すること。

（メディア依存防止への取り組み）

第17条 市は、伊達っ子がスマートフォン、タブレット型端末その他映像を表示する電子機器（以下、「スマートフォン等」という。）の過度な利用により心身の発達を阻害されないよう、伊達っ子及び保護者へメディアとの付き合い方の理解を深めるための啓発その他必要な施策を推進します。

（応援することの実践）

第18条 市は、伊達っ子が自己肯定感を持って潤いのある生活を送るため、みんなが伊達っ子の頑張りを認め、ほめて応援することを推進します。

（お手伝いの実践）

第19条 市は、保護者及び遊び学び育つ施設と連携し、伊達っ子が無理のない範囲において自主的に家族へお手伝いを申し出て、最後までやり遂げることを推進します。

第3節 伊達っ子の人権を守る施策

（虐待防止への取り組み）

第20条 市は、伊達っ子への虐待の防止及び早期発見、その他虐待をなくすために必要な施策を講ずるため、次のことを推進します。

（1）伊達っ子が、暴力や暴言等を受けた際は、我慢せずすぐに周りの大人たちへ相談できるようにすること。

（2）みんなが、伊達っ子に対し暴力、暴言等の行為をしないこと。また、虐待を受けている又はそのおそれがある伊達っ子がいた場合は、ためらわず関係機関へ通告すること。

（いじめ、不登校及びひきこもりへの取り組み）

第21条 市は、伊達っ子が充実した学校生活を送るため、次のことを推進します。

（1）伊達っ子が、いじめをしない、我慢をしない、見ぬ振りしないの意識をつくり、相談しやすい体制を構築すること。

（2）みんなが、不登校及びひきこもりの伊達っ子が再び通学又は社会復帰できるように必要な措置を講ずること。

（ヤングケアラーへの配慮）

第22条 市は、ヤングケアラーの家族への思いを踏まえつつ、伊達っ子の権利及び利益が最大限に配慮されるような施策を推進します。

（性別に関する差別の防止）

第23条 市は、男女共同参画社会の形成に関する基本理念のもと、伊達っ子が性別（身体的性、性自認、性的指向、性表現）に関わらず、一人ひとりの能力を十分に発揮する機会が確保されるとともに、性別による差別的扱いを受けることがないための施策を推進します。

第4節 伊達っ子を中心とした楽しいまちづくりの施策

（知的好奇心を満たす楽しいまち）

第24条 市は、伊達っ子にとって知的好奇心を満たす楽しいまちとするため、自然、歴史、

伝統文化及び産業等の学習及び体験の受け入れについて、みんなで一体となって取り組む体制の構築を推進します。

(意見表明や社会参加の促進)

第25条 市は、伊達っ子の意見表明や社会参加の促進のため、次のことを推進します。

(1) 伊達っ子が、社会の一員として自分の考えや意見を表明するなど、社会に参加する機会を設けること。

(2) みんなが、伊達っ子の考えや意見を聴く力を身に付け、尊重するとともに、伊達っ子の主体的な社会活動を支援すること。

(伊達っ子こどもの日)

第26条 市は、社会的自立に向け元気に頑張っている伊達っ子が、普段より大人たちと多く語り、みんなへ感謝の気持ちを伝える日として伊達市版こどもの日を創設し、毎月1日を「伊達っ子こどもの日」とします。

2 市は、その確実な実施と周知を図るための施策を推進します。

第4章 雑則

(委任)

第27条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が定めます。

この条例は、令和6年4月1日から施行します。